

マーサソングの小さな世界

マーサソング

ご購入ありがとうございます

ご感想・ご意見は下記にお願いいたします

連絡先 〒474-0000

愛知県大府市中央6-118-1

大府郵便局止め

マーサソング 宛

マーサ
江苏工业学院图书馆
藏书章

目次

オープニング	7
時々ね	8
回り続ける	9
美しいあこがれ	10
いつまで苦しい	11
小さな葛藤	12
月が綺麗ね	13
教えてほしい	14
幸福です	16
今宵は闇夜	17
スモールワールド	18
君はやがて少女の元へ	19
迷い唄	20
君が答える	22
どこかにいこうよ	24
一人、映画を見ることもなく	25
あなたの手の中で	26
護るほどの想い	27
スタンド・バイ・ミー	28
ここにいる	29
共にするゆえ	30
ふらちな孤独	31
見飽きた世界を一度離れて	32

少しだけちぢまって	33
記憶は私を変えうるか	34
心込めて言うよ	36
ゴーレムの秘密	38
後ろ指さされつつ	40
ミスターライトマン	41
遠い街から	42
一筋の迷い	44
真実を込めて	45
弱いもの	46
夜空と月の隙間の時間	47
つもりつもった霧ははれない	48
神々の淘汰する世界	50
休息と安堵に怒りを	52
臃気な生命賛歌	54
引力は運命のなか自覚のなか	56
私という幸せ	57
情熱の遺跡	58
流されていて足元があって	60
うごめくシビト	62
暴れる暴れる	64
闇より愛を	66
夢は災難 自我は死ね	68

日々はつねづね	70
いなかったこと	72
孤島の南	74
思春期を過ぎず	76
いたる所に監視の目	78
裂傷の柔軟	80
そなたのミクニ	82
交差する世界	84
喜びの歌	86
純情は汚れない！	88
メビウス	90
見ているもの	92
迷い道のバランス	94
世代は変わる	96
忘却の彼方	98
幾千通りの産声	100
気が付いて	102
伝えたい事	104
二賢者と一フール	106
時代が違う	110
とわのくに	112
正義を知る者	114
寂しがり屋のベビーベビー	116

続けること	118
遠い夕日に背が火照る	120
ハッピーエンドは傷つかない	122
ただひとりのセカイ	124
十年後	126
苦し紛れに夢飛行	128
持ちこらえていた世紀末	130
ビビビビビビ	132
裕福な時間	134
1 9 3 5	136
人格を持つ者として	138
月の鼓動を知る者達	140
十四回目の出会い	142
世々は情けと記憶を持たない	144
理由	146
いつかから	148
存在するはずのもの	150
すばらしころ	152
この目では見えない景色	154
最後の言葉	156
誰も知らない物語	158
源流の魔力	160
good end goodbye	162

な ゑ ひつよう
泣き濡れる必要のない

みらい て
未来を照らしているのだよいつだって

ちい び たよ うず なか
小さなかがり火ひとつに頼らなければならない渦の中

きみ ひかり もの
君の光たる者をいつだって

さが ほし うみ なか
探しているのだよ星の海の中

ぼく し
僕は知っているのだから

まち まち つよ
街は街であろうと強がるものだから

きみ
君はただ

な
泣いてしまうのだけれど

すこ おぼ
少しだけ覚えておいて

ぼく
僕は

きみ し
君を知っている

ときどき
時々ね

1998 11 7

ときどき かんが
時々ね 考えたりするさ

いくつかの複線ふくせんがこんがらがって頭ん中あたま なかがね

パンクするぐらい考えたりするさ

どうしようもない事ことっていうのは時々ね

僕ぼく おを追いつめるように考えさすのさ

ただど ワカラナイ・・・ワカラナイコトばかり

僕ぼく な ぜは何故 考えるのか すら

ワカラナイ・・・ワカラナインダ

ああ ああ 君きみ みが見たい

君きみ みを見ていたいよ ずっと！ ずっと！！ ずっとさ・・・

僕ぼく みらいの未来をいろどってほしい

僕ぼくのそばで僕ぼく おこなの行いを褒めてほしいよ

君きみがいれば妥協だきようしない確かな未来たし みらいを

ずっと！ ずっと！！ ずっと！！ 見てられそうさ・・・

ああ ああ 理想りそうとは 理想りそうとは

もうすでに僕を甘美かんび ゆめみに夢見させない！！！！

何故 君な ぜが僕きみを誰ぼくよりも愛だれしてくれないという事あいと

僕ぼくはなにもかも人ひとより優すぐれているわけではないことが

僕ぼくに 妥協だきようを奨めてくれる・・・

君きみが 君きみが 僕ぼくを知らないということが 苦くるしい・・・

苦くるしいです・・・ 苦くるしいですよ・・・

愛あいい愛あいされ絡み合う二本の毛糸から あ にほん けいと かたが固くほどけないように

僕ぼくは君きみを掴つかみたい

掴つかまれた君きみは僕ぼくの目めを見て

「綺麗きれいね」と・・・言いってほしいです

まわ つづ
回り続ける

1998 11 7

こよい ぼく おど
今宵は僕と踊りましょうよ
つきあ なか かんせい
月明かりの中では完成されたステージのようで
すこ こうよう ほお
少しばかり高揚したあなたの頬が
こい おとめ ぼく さび むね あら
恋した乙女のように僕の錆れた胸を洗うようです
こうふく うる ひどみ ぼく つつ こ
幸福なあなたの潤んだ瞳が僕を包み込むように
こよい ぼく おど
今宵は僕と踊りましょうよ
に ど と ほし
二度は止まらぬこの星で
ときどきぼく ふこう おそ ぜつぼう ひと みにく し
時々僕は不幸に襲われ絶望は人の醜さを知らしめるけど
かんせい なか せいかつ つか すべ
こんな完成されたステージの中では生活の疲れ全てと
げんじつてき いや すべ
現実的な嫌らしさ全てが
げんそうてき なが き
幻想的に流れ去ります
こよい すべ わす
今宵は全て忘れたままで
こよい えんげき
まるで今宵だけの演劇のように
し おきな ころ
なにも知らない幼かったあの頃のように
あさ お せいらい うたげ
朝には終わる精霊の宴のように
おそ いま おも おど
なにも恐れず今だけを想い踊ってください
ふたり ゆ あわ ねが
二人を揺らす淡いリズムが願わくば
ながねん ぼく ゆが ころ いや
長年の僕の歪んだ心を癒すなら
こよい お に ど と
今宵は終わることない二度は止まらぬメロディとなり
ぼく か ゆ つづ
僕をこれから変わらず揺らし続けることでしょう
こよい ぼく おど
今宵は僕と踊りましょうよ
こよい すてき つきあ
まるで今宵は素敵な月明かり

うつく
美しいあこがれ

1998 11 7

ぼく
僕はこぼれそな
きみ て に こ あまおと
君の手のひらに逃げ込んだ雨音に
そそ きみ しせん しつと
注がれる君の視線に嫉妬する
ああ ああ な ぜ わじゅん
何故か矛盾ばかりが
ぼく ほほえ
僕に微笑んでいくようさ

「ヒトリニシナイデ！！」
だれ ことば いま きみ つみ
それは誰の言葉か今はわからず君は罪なく
「いじわるしないで」とやさしく笑った
ぼく つみ きみ とげ
僕は罪ない君の棘にからまり
く ちか にがわら
まるで朽ちていくようにあきらめに近い苦笑い
きみ か て み しせん
君は変わらず手のひら見つめてやさしい視線を
き すいてき そそ
消えゆく水滴に注ぐのさ
に ど お じかん つづ
もう二度と 終わらない時間が続いてく
それでいいでしょ？
おも で か いま
きつと思い出に変わった今は
むね ほ て あま
胸を火照らす甘いささやき

それでいいでしょ？
いま しあわ
きつと今は幸せなのよ
き す いま
それに気づかず過ぎてゆく今は
かな し きみ ほほえ
とても悲しいものだ知っているよな君の微笑みは
うつく ぼく
美しい僕のあこがれ

いつまで^{くる}苦しい

1998 11 7

ま きいろ そ うみ
真っ黄色に染まった海！
はく かわ
僕は乾いてる！
だれ だれ ゆめ み
誰か！ 誰か！ 夢を見て・・・！
はく しあわ すがた み
僕が幸せになっている姿を・・・見て！
いま
ああ そうだ 今はもう
だれ わけ
誰でもいいって訳じゃない
きみ きみ こえとど
君！ 君！ もしもこの声届くなら
ねが とど
もしもこの願いが 届くなら
き きみ
聞いてほしい・・・耳をすまして！！
はく き はく おも
僕を聞くんだ！ 僕のこの・・・想
とど
届け・・・！（タスケテ）
はく ある つづ
僕はいつまで歩き続けて
はく ゆめ み
僕はいつまで夢見るだろう
はく かわ た
僕はいつまで乾きに耐えて
はく もと
僕はいつまで求められるだろう・・・
もと もと もと
求めて 求めて 求めて
はく くる
僕はいつまで苦しいんだ・・・
はく きみ きみ
僕には君が 君が
い とど
どこまで行っても届かない
きみ ねが
それは君の願いでもある？
おし きみ
教えてほしい もしも君が・・・
はく こば
僕を拒みたいのなら

はく はく と
僕は 僕は 飛べるさ
と と
飛べるさ！！・・・飛べるさ
と い
「飛べずにどこへ行こうというの？」
と と
飛べるさ！！！！ 飛べるさ！！！！
と と
ああ 飛べるとも 飛べるとも！
い
どこまで行こうかって
かんが と
考えてるのさ そう そう 飛べるんだ・・・
と
飛ぶんだ！！！！
はく お
僕はなにも惜しまずに！
おそ こわ
なにも恐れない・・・ 怖がらない・・・
こわ
「ほら、怖いのよ」
い はく こわ こわ
言うな！ 僕は怖くない 怖くない
こわ
・・・怖くない
こわ こわ
「怖いんだわ 怖いんだわ」
こわ
怖くない！！
と かんたん
飛べるさ とてもとても 簡単なこと
む り つよ い じ
無理してない 強がってない 意地じゃない
かろ の
とても軽やかに とても伸びやかに
と と と
飛べる飛べる飛べる
と
「飛べないわ きっとね」
と だま
飛べるさ・・・ 黙っているんだ！！
はく りょうしん
僕の良心

つき　きれい
月が綺麗ね

1998 11 9

あなたの情熱を一心に浴びたよな
じょうねつ いっしん あ
 破れた布袋からあふれ落ちる一滴の水たちが
やぶ ぬのぶくろ お いってき みず
 わたしを水銀で浴びたよに甘く溶かして
すいぎん あ あま と
 ねえ 生きるために必要なことが
い ひつよう
 わたしを今つつんでいるのかしら
いま
 ねえ 夢を見るよに今あなたを見てるわ
ゆめ み いま み
 あなたの憂鬱が私を幸せにする
ゆううつ わたし しあわ
き づ
 気付いているかしら
かん
 感じているかしら
ぜんしんあめ う いま ねつ おほ
 全身雨に打たれたよにわたしは今わたしの熱に溺れて
ひとみ こうみく こうはく なか
 うつろな瞳で幸福がはじけた空白の中で
たいはい もてあそ ざいあくかん ふつしよく
 退廃を弄んだような罪悪感を払拭してるの
すこ ふあん
 ねえ ねえ 少しだけそんなときには不安になる
やさ とき すてき
 けだるく優しくそんな時には「素敵だよ」って
て い
 照れくさそうにでも 言ってよ
みらいず こうみく なか
 ああ あなたとの未来図がめくるめく幸福の中で
かお だ と
 顔を出してははじけ飛んでいく
いちど
 ねえ もう一度キスして
いま かんが
 そしてもう今はなにも考えないで
あさ
 朝になったらまた
て
 照れくさそうにでも キスしてよ

おし
教えてほしい

1998 11 10

そら たた か
空を叩いていだちを掻きむしった

きみ い
君はなんて言うだろう

むひょうじょう こうしん つづ まち おも くも お つぶ
無表情な行進が続く街は重たい雲に押し潰されてゆく

ぼく き
僕は ああ 聞いておくれよ

きみ い
君はなんて言うだろう

ぼく けしき なが なが
僕はいろあせてゆく景色の流れを眺めているのさ

と こ
そして溶け込んでゆく

きみ い
君はなんて言うだろう

じかん なか みな みなぐる
時間の中では皆が皆狂ってゆく

ぼく れいがい と き まりよく み し この
僕も例外なく時の魔力に魅せられ死を好む

せいげんじかん せい
制限時間いっぱいまで生にしがみつこうとする

す ば い
そんな素晴らしいエネルギーはどこへ行ってしまったろう

きみ い
君はなんて言うだろう

あしな こうしん かん
足並みそろえた行進じゃうまく感じることもできずに

ぼく わす いま うちお
僕は ああ どうせ忘れてしまう今が口惜しいけれど

き
聞いておくれよ

じかん な まち てばな
時間と馴れたこの街を手放せない

きみ い
君はなんて言うだろう

ぼく ぼく もと
僕は 僕は ああ なにを求めるべきだい？

め ぞ ある
なにを目標して歩いているだろ

さが まよ
なにを探して迷っているだろ

まも たたか
なにを守って戦っているだろ

きみ い
君はなんて言うだろう

ぼく に ど いま か あ
僕は二度とない今どうまく噛み合わずもがいて

お らせんかいだん のぼ たの
まるで終わらない螺旋階段を登るようになにも楽しくない

ああ ^き聞いておくれよ

^{とき}時には恋物語や^{たかな}高鳴る^{ゆめ}夢も^{あじ}味わった

たけどまるで^{ぜんぶ}全部ハッパリなんだ

^{ほく}僕は^{ほんとう}本当の^{かいらく}快楽を^し知りたくて

なにもかも^{ぎぜんてき}偽善的なこの^{まち}街が^{きら}嫌い^いだと言ったって

^き聞いておくれよ

^{かんきょう}環境も^{ほくじしん}僕自身も^かなにも^か変わりはしないんだ

なにも^か変わらない

^{おし}教えておくれよ

ねえ もしも^{ほく}僕が^{ほんき}本気で^た立ち向かう^む時^{とき}がくるのなら

^{ほく}僕は^{まち}まだこの^{まち}街で^{きたい}期待を^だ抱いていてもいいのかい？

^{きみ}君は^いなんて言うだろう